

宇部市健康づくり推進審議会（令和4年度第2回）開催にかかる報告書

1 日時

令和5年（2023年）2月15日（水）19時30分～20時40分

2 場所

保健センター 1階 健診ホール

3 出席者

(1) 審議会委員 14人

(2) 事務局 9人

健康福祉部

健康増進課

佐々木部長、加生次長

神代課長、伊藤副課長、奈須係長、嶋渡係長、

古林係長、武田、藤本

4 配布資料

(1) 第二次宇部市自殺対策計画の策定

(2) 健康寿命延伸プログラム（スマートウェルネスシティ）推進事業の実施状況

(3) その他

5 概要（下記のとおり）

(1) あいさつ（佐々木部長）

(2) 第二次宇部市自殺対策計画の策定

（事務局）【説明】

（委員）9ページの棒グラフ（男女別・年代別自殺者割合）の母数は何か。

（事務局）男女別・年代別の割合を全て足すと100%になる。

（委員）自殺者は20歳未満、20歳代の男性が多いが、この原因をどのように考えているか。

（事務局）個別の原因は公表されていないが、独居や孤立といった原因があるのかもしれない。今後、可能であれば資料を集めて分析していきたい。また、若い人が悩みを持ったときに適切な支援が届いていないことも考えられるので、高校、専門学校、大学と連携しながら対策を講じていきたい。一人暮らしの方に対しても事業者と連携して支援できるような体制を考えていかなければと思っています。

（委員）10ページの動機・原因（健康問題、家庭問題など）は、宇部市のデータか。このデータには、原因不明分も含まれているのか。

- (事務局) 宇部市のデータであり、原因不明分も含まれている。
- (委員) 自殺を考えたがやめた人のデータはあるのか。
自殺を思いとどまった理由を分析すれば新たな方策が見えるかもしれない。
データがなければ無記名アンケートなどで調査すればよい。
- (事務局) 自殺未遂の経験に関するデータとしては、令和3年度の31人の自殺者のうち、未遂5人、経験なし20人、不明6人となっている。
御意見のとおり、アンケートで実態をつかめるかもしれない。
- (委員) この時世、自殺を考える人は非常に多いのではないか。データをとれば実態が浮かび上がってくると思う。
- (事務局) 先日、ある専門学校の学生に実施したアンケートで、「あなたや同世代の人で自殺を身近に感じたことがありますか。」という設問に、一定数「ある」と回答があった。今後そういった意見を拾っていきたいと思っている。
- (委員) 6ページの「児童生徒のSOSの出し方に関する教育実施」というタイトルと3つの取組例がつながっていないように感じる。
- (事務局) 取組内容としては、中学生にタブレットを配布しており、そこからSOSの発信・受付をするシステムを教育委員会で整備している。そのほか、教育相談等の機会に悩みを相談していこうという呼びかけや相談先の情報が記載されているカードの配布、アンケートの実施とともに、早期発見・発信をしていこうという取組を行っている。
- (委員) いじめの解消率という言葉に疑問を感じる。解消率とはどのように判断されているのか。
- (事務局) いじめの判断基準があり、これが解消されたときに、いじめの解消と判断していると聞いている。
判断基準(定義)…児童・生徒が心理的または物理的な影響を与える行為であって、心身の苦痛を感じているもの
- (委員) スクールカウンセラーの派遣頻度はどれくらいなのか。効果的に実施するにはある程度の頻度が必要なのではないか。
- (事務局) 派遣回数把握していないが、公立の全小中学校に計8人のスクールカウンセラーを配置している。
- (委員) いのちの電話はどのような利用状況か。個人情報があるので把握しにくいと思うが、分かる範囲で教えてほしい。
- (事務局) いのちの電話は市ウェブサイトにも相談窓口として掲載しているが、相談件数を把握できていない。今後、把握していきたい。
- (委員) 個人的に、自殺された大学生を何人か知っているが、全て一人住まいだった。親元を離れ、相談することが難しい環境にあることも一因と考えられる。

また、不登校者を預かる施設で、母親からいじめを受けていたが、施設を利用するようになってから少し明るくなってきたという事例もある。ケアがうまくいけば改善していくこともある。自殺が多いという宇部市のデータを見せていただいて、こういった取組にも関わっていただければと考えている。

(委員) 5 ページを見ると不登校児童生徒数が増えている。これは悪い意味ではなく、今まで出せなかったSOSが出せるようになったものと捉えて、よい方向につなげていけないか。

(事務局) 御意見のとおり色々な解釈の仕方があるので、学校とも連携をとって分析していきたい。

(委員) 不登校児童生徒数は第二次自殺対策計画の指標に上げない方がよいと思う。不登校はSOSの出し方の一つの方法であり、それを減らすことはSOSを出させないようにすることになり逆効果だと感じる。

「不登校の原因は親のいじめで、施設利用で明るくなった。」という事例の紹介があった。不登校を減らすより、不登校児童生徒にどのように対応するかが自殺対策になると考える。不登校児童生徒に社会で対応する施策が必要である。

(事務局) 今後の二次計画策定において、関係者にも頂いた意見を共有し、新たな指標の検討に当たって考慮させていただく。

(3) 健康寿命延伸プログラム（スマートウェルネスシティ）推進事業の実施状況

(事務局) 【説明】

(委員) スポーツコミッションでも運動に取り組む市民を増やそうと同じ目的を持って、できる範囲の連携をしてきた。「歩くことが義務的に…」という意見には反省すべきところもあると思うが、その中でも楽しんでもらえた人や健康改善につながった人はいるはずなので、そういった部分を改善しながら取組としては続けていってもらいたい。本人のリスク等に応じたプログラムの設定や市民自身が活躍して周りに広げていく仕組みも良い取組だと思うので、残して行ってほしい。

なお、最初のタイトルに「子供から高齢者まで安心して」とあるが、この事業には子供に対する取組がないように思える。

(委員) この事業にはずっと関わってきた。非常によく成果が出ていると思う。個別運動プログラムは令和5年度から新しい形でやっていくということで、今までの教室型ではなくなる。4年間やってきて参加者が増えてきた中で、非常に残念という気持ちが強いが、歩くことなど運動習慣が身に付いた人が継続していけるように、フォローする体制は必要だと思う。

この事業の成果として KPI が達成できているのか現時点では判断しかねるが、着実に参加者は増えているので最終年度も目標値を超えていけるように、啓発の部分の施策を深掘りしていければよいと思う。

(会 長) 企業の実組としてはどうか。

(委 員) 所属する健康保険組合でウォーキングラリーを実施しているが参加率が低い。この事業は、素晴らしい成果が出ている成功事例だと思う。できるなら 4 年間の成果をテレビなどマスコミに取り上げてもらってもよいのではないかと思う。

(4) その他

(委 員) 地区の課題として、高齢化に伴い、登下校の見守りが成り立たなくなっている。それをどう解決するか、地域が子供たちをどう育てていくかを真剣に考えていく必要がある。

(事 務 局) 地域の現状をお聞かせいただきありがとうございます。地域での話を聞くと担い手不足、家庭環境の変化などで、これまでできていたことができなくなっている。色々な問題が山積みだと再認識させていただいた。年代に関係なく、一人一人が安心して暮らせるように、関係機関と連携して取り組んでいきたい。

(閉会)